

# 美術館の文化プログラムによるまちづくりと文化観光

金沢 21 世紀美術館

秋元 雄史

金沢21世紀美術館は、  
金沢のまちの中にあり、賑わいをもたらす  
存在でなければならない  
「街の応接間」  
「割烹着で行ける美術館」



これまでの美術館の目的は、文化財の保管と公開でした。美術の専門機関として、歴史的な文化遺産を保管して、それを公開することが主な目的でした。

そこに、まちづくりやまちの活性化を促す文化プログラムを加えて、より活動性の高い美術館活動を行っていかこうとする美術館が 2000 年以降に生まれてきました。

今日は、そのひとつである、私の務める金沢 21 世紀美術館についての事例をご紹介しながら、美術館を中心にした美術プログラムによる、まちづくりやまちの活性化、そして、交流人口の増加による息の長い観光政策についてお話をさせていただきます。

② 「Aloha Amigo! フェデリコ・エレロ×関口和之」展の屋外イベント風景



「Aloha Amigo! フェデリコ・エレロ×関口和之」展(2012年5月3日ー2013年3月17日)  
2012年11月18日「広瀬光治講演会」  
撮影:喜多直人

今ここで紹介している画像は、「若者夢チャレンジ・アートプログラム」の一コマで、市民参加によるアートプログラムの最後を飾るイベント風景です。地元のウクレレマニアとフラダンスのグループが協力して実施した発表会の様子です。これらはプロもアマもいますが、ウクレレ文化をキーワードにして、一年間をかけて美術館を中心にしてまち中にコミュニティを形成していった結果です。

さてそのような活動を仕掛ける金沢 21 世紀美術館についてご紹介します。

金沢 21 世紀美術館の特徴は、現代美術をテーマにしなが、まちの賑わいづくりや、まちの文化の醸成を目的に、人びとの交流を促していく活動を頻繁に行ってきた美術館です。美術館を中心にしてまち中に文化的なプラットフォームを形成していくことに力を注ぎました。

活動は、美術館の中だけにとどまらず、積極的に館外の様々な機関と連携し美術館を核とした文化圏、文化ゾーンを形成していくものです。

③ 「Aloha Amigo! フェデリコ・エレロ×関口和之」展 ウクレレフリーステージ!  
だれでもウクレリアン」



「Aloha Amigo! フェデリコ・エレロ×関口和之」展(2012年5月3日-2013年3月17日)  
「ウクレレフリーステージ!—誰でもウクレリアン」  
ウクレレ体験をする参加者とボランティア・メンバー(撮影日:2012年8月26日)  
撮影:喜多直人

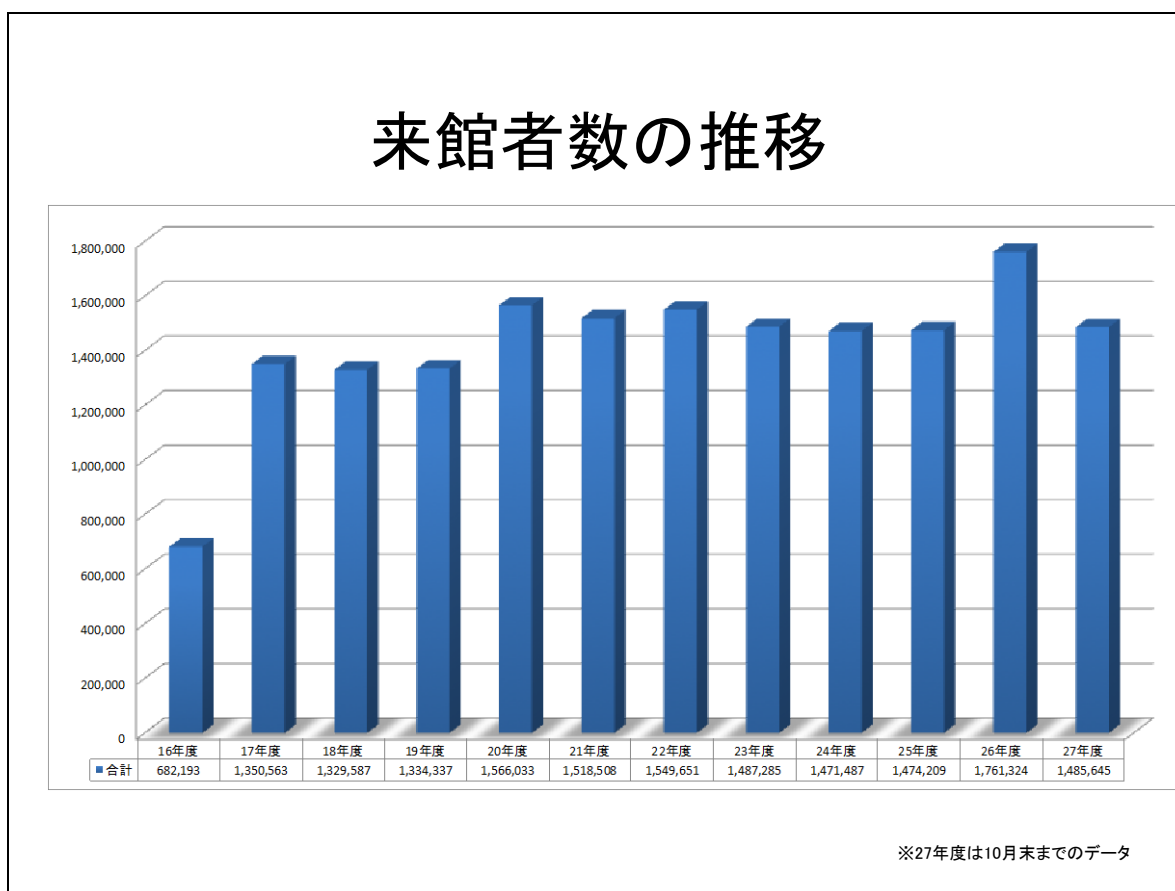
それらの活動は、地元重視型で、そのまちの生活を足場にしてはいますが、生きたテーマパークとでもいえる独特の歴史的、文化的な物語世界を形成しており、それが生活圏と重なりあうように存在しています。

そこには夢があり、物語があり、いくつもの新たなエピソードが生まれてくる仕掛けがあります。そして、その中心に美術館が存在しています。

キーワードは「市民参加」であり、「協働」と「創造」であると同時に、一方でグローバルな広がりをもつ「コミュニケーション」です。プロもアマも、地域も世界も関係なく、ひとつの文化的な場をつくるためにスクラムを組みます。

ここで生まれたまちの魅力に引き寄せられて、国内外の若者やアートファンが訪れます。訪問者は、単に外から眺めるだけでなく、ときには関わり、参加し、自らも主役になっていくのです。

#### ④2004 年の開館年からの「来館者数の推移」



ここに来館者数の推移があります。開館年が平成16年度（2004年）10月ですから、期の途中ということもあり、初年度は60万人ほどでしたが、平成17年度（2005年）の次年度から平成19年度（2007年）は130万人で推移しています。平成20年度（2008年）から、さらにまち中でのプログラム展開や国際的な交流プログラムを活発にして150万人の利用者になりました。平成26年度（2014年）の昨年、新幹線開通の前年ですが、国際的な展覧会を実施して176万人の利用者がありました。新幹線開業後の平成27年度（2015年）の、今年は、予想としては200万人を超えると考えています。前述の国際的な展覧会は、仏のルーブル美術館や国立現代美術館ポンピドー・センターとの共同企画などが代表的なものです。

⑤平成 26 年度 全国の文化レジャー施設の入館、入場者比較

●2014年度入場者数ランキング

施設名	所在	入場者数	施設名	所在	入場者数
1 東京ディズニーランド&ディズニーシー	千葉	31,377,000	21 名古屋市東山動物園	愛知	2,271,248
2 ナガシマリゾート	三重	15,050,000	22 海遊館	大阪	2,190,000
3 ユニバーサル・スタジオ・ジャパン	大阪	12,700,000	23 国営海の中道海浜公園	福岡	2,058,610
4 刈谷ハイウェイオアシス	愛知	8,428,000	24 兼六園	石川	2,037,240
5 淀川河川公園	大阪	6,462,430	25 鈴鹿サーキット	三重	1,989,193
6 おかげ横丁	三重	5,785,000	26 東京タワー	東京	1,970,000
7 MRGA WEB	東京	5,700,000	27 名古屋港水族館	愛知	1,967,223
8 東京スカイツリー	東京	5,310,000	28 国営木曾三川公園 138タワーパーク	愛知	1,932,547
9 東京ドームシティアトラクションズ	東京	5,287,000	29 東京国立博物館	東京	1,889,040
10 河川環境公園	岐阜	5,007,000	30 黒壁スクエア	滋賀	1,790,230
11 国営沖繩記念公園	沖縄	4,345,261	31 めんたいパークとこなめ	愛知	1,773,094
12 阿蘇ファームランド	熊本	4,017,000	32 国営ひたち海浜公園	茨城	1,764,731
13 横浜・八景島シーパラダイス	神奈川	3,924,500	33 金沢 21 世紀美術館	石川	1,761,324
14 東京都恩賜上野動物園	東京	3,693,757	34 伊勢崎市華蔵寺公園遊園地	群馬	1,739,472
15 ラグーナテンボス	愛知	3,260,000	35 国立科学博物館	東京	1,735,420
16 ハウステンボス	長崎	2,794,000	36 いわき・ら・ら・ミュウ	福島	1,721,600
17 国立新美術館	東京	2,620,350	37 新潟ふるさと村	新潟	1,703,400
18 首里城公園	沖縄	2,522,395	38 旭川市旭山動物園	北海道	1,651,430
19 よこはまコスモワールド	神奈川	2,500,000	39 名古屋城	愛知	1,624,369
20 JAあぐりタウンげんきの郷	愛知	2,290,461	40 愛知・地球博記念公園 モリコロパーク	愛知	1,571,800

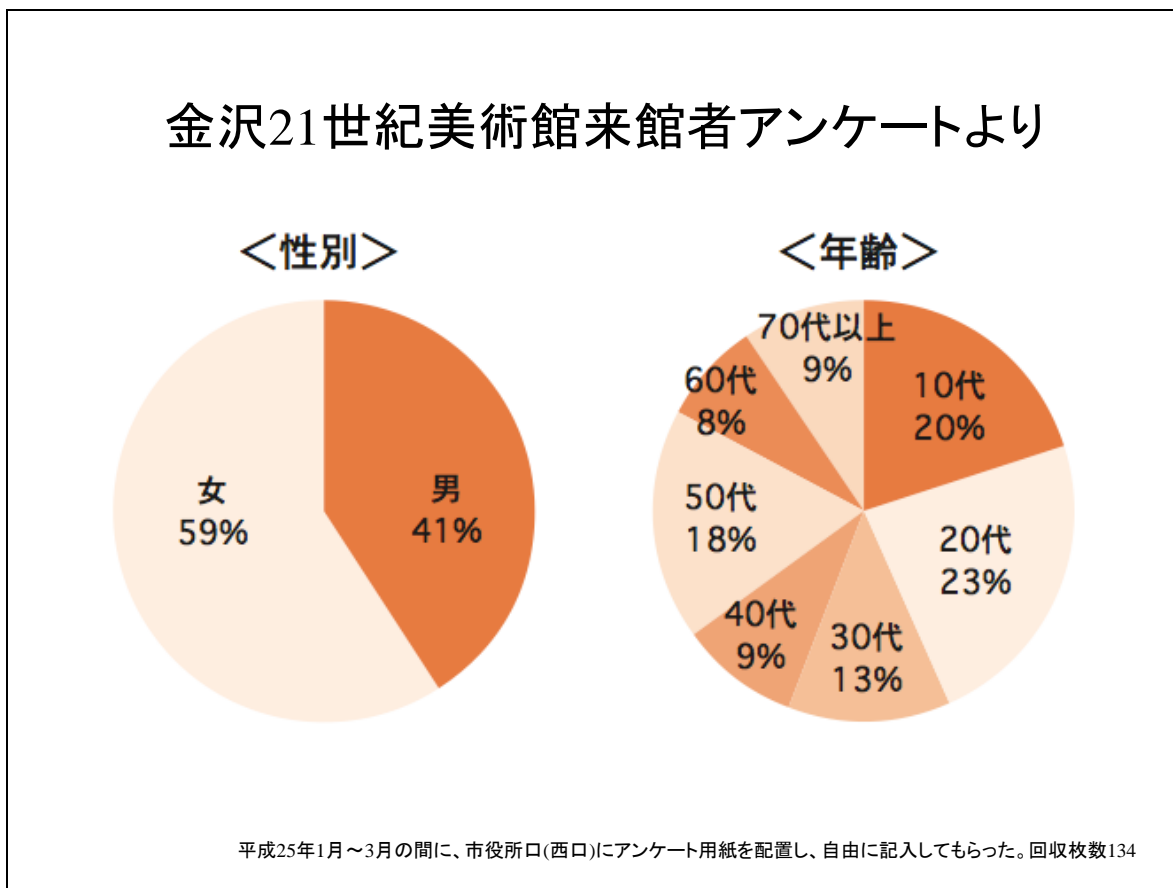
レジャーランド&レクパーク総覧2016(総合ユニコム)より

「平成 26 年度の全国の文化レジャー施設の入館、入場者の比較表」で、ベスト 40 まで載っています。上位は、「東京ディズニーランド&東京ディズニーシー」の 31,377,000 人です。続いて「ナガシマリゾート」15,050,000 人、「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」12,700,000 人です。この三つは桁が違いますが、その後、「東京スカイツリー」「上野動物園」「ハウステンボス」など全国的にも人気のある施設が数百万人台で続きます。ベスト 40 の内には、博物館や美術館の名もいくつか見られます。地の利と規模で、やはり東京の国立博物館、国立美術館が強いですが、それに続くところに金沢 21 世紀美術館があります。人口 45 万人の小さな都市で、かつ市立の美術館がこのような上位にいるというのは健闘していると言えないでしょうか。

金沢 21 世紀美術館は、ここに出ている美術館、博物館のような、我が国を代表する国宝、重文の名作、名宝を所有していません。「日本産」、「日本固有」が特徴というわけでもありません。むしろ逆で、1980 年以降に生まれた新しい美術作品ばかりですし、それに、それらは世界中から集めたものです。むしろ世界の今の時代の美術が金沢にあるということが特徴です。それも欧米だけではなく、アジア、中南米、アフリカなど、まさに世界中の美術が集まっています。地方都市金沢ですが、世界の今とつながっているところが特徴です。ですから金沢 21 世紀美術館のファンは世界中にいます。



⑥-1 来館者の属性について（性別、年齢）

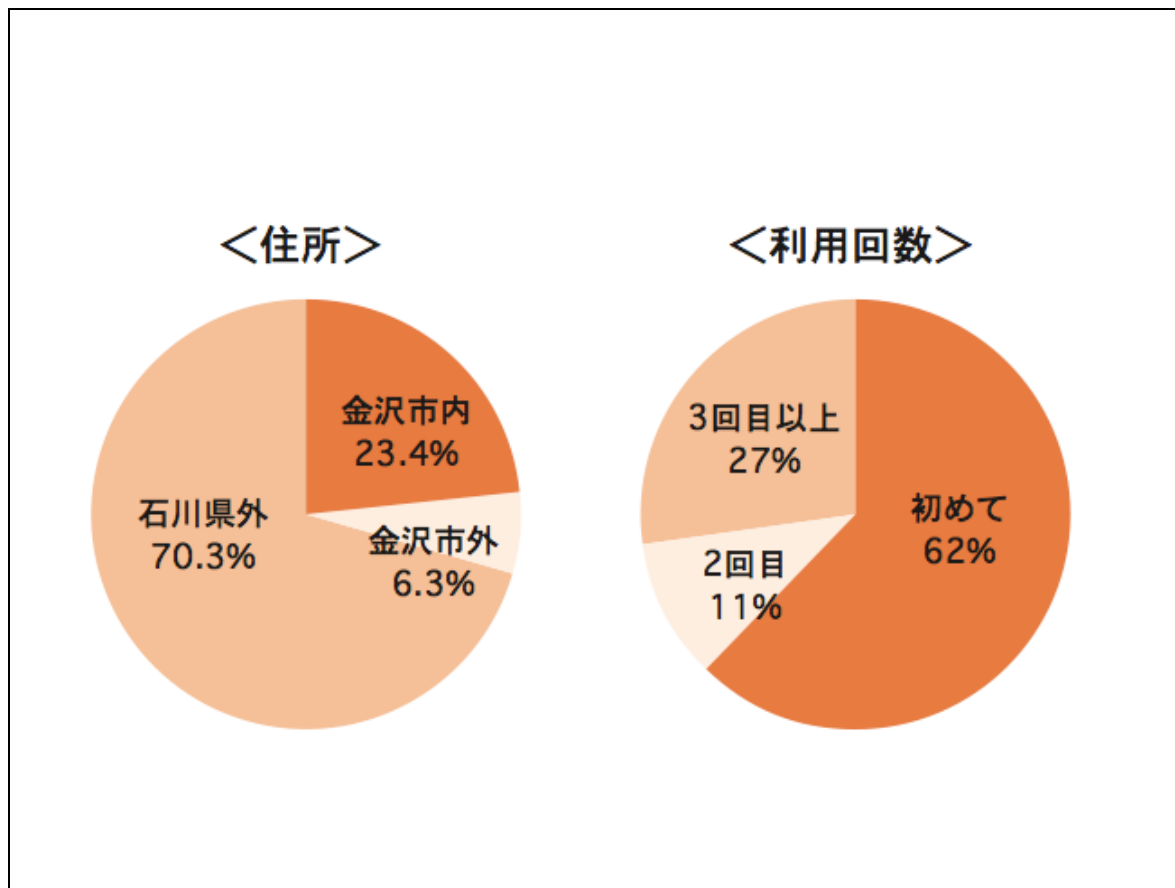


「来館者の属性」について、少し説明しましょう。

性別では、<女性>が、59%、<男性>が41%です。やはり女性が時代のトレンドを牽引していると感じます。

年齢についてですが、<10代>から<20代>の利用が43%で、半分にはいきませんが、かなりのシェアです。30代、40代の働き盛りは一旦足が遠のきますが、50代に入るとまた増加します。18%ですから10代の若者たちとあまり変わらない利用率です。60代、70代は、一桁ですから、施設としては、50代以下が魅力を感じる施設ということがわかります。また文化的好みは、50代以上と以下では異なっているということも理解できます。基本的には保守的な層には理解されません。

⑥-2 来館者の属性について（利用回数、住所）



もう一つ、利用回数とどこからおいでになっているかということについてです。利用回数は、「はじめて」が62%です。興味深い「三回以上」が27%いることです。〈住所〉では、金沢市内、県内を合わせるとおよそ30%が地元の方々です。70%が県外です。これは、そのまま「はじめて」と「三回以上」と答えた方の割合と同じなので、三割のリピート率の高い地元の人々と七割の県外の旅行者に支えられているということが出来ます。三割の地元の人びとは美術館の活動を支えてくれている美術館のコアファンで、この人々と美術館が織り成す出来事を県外の人びとが見に来るといった構図です。



⑦ 開館による経済波及効果

**金沢21世紀美術館 開館による経済波及効果**

**「建設投資」による経済波及効果は217.2億円**

**「運営支出」による経済波及効果は6.1億円**

**「来館者消費」による経済波及効果は104.8億円**

「金沢21世紀美術館」経済波及効果に関する調査報告書(平成17年9月)  
大阪市立大学大学院創造都市研究科

「建設投資」による効果が最も大きくなっていますが、これはそのほとんどが一時期（建設時）に発生するのに対し、「来館者消費」による効果は毎年生じるものであります。

美術館およびその周辺地域への効果的な活性化策等により、オープン 2 年目以降も多くの集客を実現することが重要と思われまます。

## 4つのコンセプト

- 世界の「現在(いま)」とともに生きる美術館
- まちに生き、市民とつくる、参画交流型の美術館
- 地域の伝統を未来につなげ、世界に開く美術館
- 子どもたちとともに、成長する美術館

美術館の基本姿勢について説明します。「4つのコンセプト」といっているものです。ここにあるように4つありますが、どれも重要なものですが、その中で二つ目に掲げている「まちに生き、市民とつくる、参画交流型の美術館」というところは今日の話と関わるところです。

これには次のようなことばがあります。「美術館には、教育、創造、エンターテインメント、コミュニケーションの場など、新たな『まちの広場』としての役割が期待されています。市民や産業界など様々な組織と連携を図り、全く新しい美術館活動を展開します」というものです。

⑧開かれた美術館活動<コミッションワークの設置>

レアンドロ・エルリッヒ《スイミング・プール》2004年



撮影:渡邊修 提供:金沢21世紀美術館

ここではこの美術館独自の活動を紹介します。

ひとつは「コミッションワークの設置」です。美術館の場所に合わせて、備え付けの常設作品があり、それがひとつのアトラクションになり、多くの来館者を惹きつけています。1973年アルゼンチン生まれのレアンドロ・エルリッヒの《スイミング・プール》という作品です。この作品を見に多くの人を訪れます。小型のスイミング・プールのような姿で、水も張られているのですが、表面だけで、中には人が入ることができる空洞がある、一種のだまし絵風の立体作品で、外から見ている人は、あたかもプールの中に見える人が、水の中に見えるように見えるという作品です。シンプルな仕掛けですから、すぐに嘘だということはわかるのですが、波立つ水面が観客の間に介在することで、非日常的な体験になるのです。こういった〈非日常感〉を味わうことができる作品と場所がいくつもあります。

## **教育普及活動**

- ・**一般鑑賞プログラム**  
アーティスト・トーク、講演会、ギャラリートーク、展覧会関連企画など
- ・**キッズスタジオプログラム**  
「ハンズオン・まるびい!」、プレイルーフ など
- ・**アートライブラリプログラム**  
「絵本を読もう」など
- ・**長期プログラム**  
「金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム」
- ・**学校関連事業**  
「ミュージアムクルーズ」、「中学生まるびいアートスクール」 など
- ・**事業ボランティア**  
「みらいカフェ」 など

教育普及プログラムは、対象と場所に合わせて六つのプログラムがあります。長期プログラム「若者夢チャレンジ・アートプログラム」は冒頭で紹介しましたが、20代までの若者によるプロの作家とつくる現代アートのプログラムでした。

他にもキッズスタジオで開催される「ハンズオン・まるびい」などの子供向けの教育プログラムやライブラリースタッフが行う「絵本を読もう」など、さらにボランティアスタッフが主体的に行っている美術館の案内「みらいカフェ」などがあり、多くの人びとが関わっています。

⑨-2 日開かれた美術館活動<教育普及プログラム>-2



2014年度 金沢市内小学4年生全児童招待プログラム「ミュージアム・クルーズ」「コレクション展Ⅰ 透過と反射」鑑賞風景  
妹島和世+西沢立衛/SANAA《無重力性と透明性》2002年



「ハンズオン・まるびい！」2014年度プレイルーム「桜の木になろう」  
(木のポーズをとった自分を型取りして桜の花や葉を描く)



アートライブラリー関連企画 「絵本を読もう」風景



「みらいカフェ」館内案内ボランティア風景

続けて紹介するのは「学校関連事業」のひとつで「ミュージアム・クルーズ」という小学校4年生向けの美術館を使った鑑賞授業です。プログラム名からもわかるように“美術館を探検する”といったイメージで、現代アートの鑑賞授業を行います。ポイントは、学校の先生、市民ボランティアと教育普及のスタッフが合同でプログラムをつくることです。

金沢市内の小学4年生は約5000人弱いますが、学校単位で美術館に訪問し、数時間かけて美術館賞をします。とてもいい体験で、もうすでに10年を越えていますから、最初の年に体験した子供は二十歳ぐらいになっています。その子供たちが学生になり、今度は市民ボランティアとして戻ってきています。また、この美術館で現代美術に触れて、その後、大学留学をして、アメリカで活躍し始めた青年たちもいます。

## ⑩まち中に広がる活動（金沢市内イベント情報、展覧会情報）

### 2015年11月のイベント一覧

- 2015.10.23 ~2016.2.14 開催 金箔雪吊り「金箔きらら」&ツリーファンタジーイルミネーション
- 2015.11.1 ~2016.2.14 開催 香林坊地区ツリーファンタジー
- 2015.11.1 開催 兼六園で朝食を
- 2015.11.2 開催 金沢芸妓の舞
- 2015.11.3 開催 兼六園無料開園～文化の日～
- 2015.11.4 ~2015.11.8 開催 かなざわ燈涼会
- 2015.11.7 ~2015.11.8 開催 近江町カニまつり
- 2015.11.7 開催【体感！金沢の旅】伝統に浸る、金沢「和」体験
- 2015.11.10 開催 金沢芸妓の舞
- 2015.11.14 ~2015.11.14 開催 金沢ナイトミュージアム エリック・サティ「スポーツと気晴らし」
- 2015.11.14 ~2015.11.15 開催 金沢ナイトミュージアム2015 金沢マラソン編
- 2015.11.14 開催 金沢秋のおもてなし茶会
- 2015.11.15 開催 金沢マラソン2015
- 2015.11.20 ~2015.11.29 開催 金沢城・兼六園ライトアップ～秋の段～
- 2015.11.22 開催 金沢秋のおもてなし茶会
- 2015.11.29 開催 兼六園で朝食を

金沢市観光協会HPより

[http://www.kanazawa-kankouyukai.or.jp/event/event\\_list.php?y=2015&m=12](http://www.kanazawa-kankouyukai.or.jp/event/event_list.php?y=2015&m=12)

美術館を核として、様々な文化活動がまち中に広がり、金沢市内は年間を通じて多くのイベントが開催されています。金沢21世紀美術館開館以前は、金沢では外を使用してイベントを開催するという習慣はなく、もっぱらインドアでイベントが行われていました。雨が多い、冬は寒いということもあり、屋外を使った展覧会やコンサートが実施されませんでした。ところが今は以前とは異なり、多くのイベントが毎週末毎に開催されていて、ちょっとした非日常的な世界がいたるところに出現しています。これも文化をまちに開いてきた金沢21世紀美術館の成果のひとつでもあります。



## 2015年11月の企画展一覧

- 7.4~11.8 開催【室生犀星記念館】北陸新幹線開業記念「犀星と田端文士村」展
- 8.8~11.30 開催【徳田秋聲記念館】開館十周年記念企画展「芙美子と秋聲」
- 8.19~11.8 開催【鈴木大拙館】企画展「大拙と柳宗悦」
- 8.22~11.23 開催【金沢湯涌夢二館】夢二の子ども絵3 -絵雑誌と絵本の時代-
- 9.9~11.29 開催【中村記念美術館】企画展「茶道美術名品展」
- 9.19~3.21 開催【金沢21世紀美術館】ザ・コンテンポラリー3 Ghost in the Cell:細胞の中の幽霊
- 9.19~1.17 開催【金沢21世紀美術館】アペルト02 樫尾聡美 生命の内側にひそむもの
- 9.19~12.13 開催【金沢21世紀美術館】ザ・コンテンポラリー2 誰が世界を翻訳するのか
- 10.1~11.30 開催【成翼閣】前田家の奥方展
- 10.30~11.8 開催【石川県立美術館】第62回 日本伝統工芸展 金沢展
- 11.5~11.8 開催 第42回石川県デザイン展
- 11.18~12.7 開催【金沢湯涌江戸村】H+ART展vol.6

金沢市観光協会HPより  
[http://www.kanazawa-kankouyukai.or.jp/event/kikaku\\_list.php?y=2015&m=11](http://www.kanazawa-kankouyukai.or.jp/event/kikaku_list.php?y=2015&m=11)

金沢市内にはざっと数えて34の博物館、美術館があります。金沢21世紀美術館もこの中にあります。これらが連携し、まちと関わりを深めてきています。暮らしの傍に文化施設があり、ちょっとした非日常気分を味わうことができます。日々の暮らしの中で、高いクオリティの文化を気軽に体験できれば、わざわざ遠くへいかななくても文化的な気分は味わうことができるのです。暮らしの質が高まれば、それに気がついた人びとが外から訪れます。自然に人は増え、中にはまちを気に入って定住する人たちも出てきます。文化は目に見えないし、簡単に測ることもできないので、なかなか実感がありませんが、文化ほど人を引き付ける力のあるものはありません。生活レベルと言い換えてもいいかもしれませんが、空気のように存在する文化は簡単にはできません。結局それを受け止めることができる人がいてはじめて成立するからです。成熟した人が育たなければ結局いい文化は保てません。息の長い観光とは、お互いに互いの文化をリスペクトして、それを楽しみ、理解するという相互交流によって成り立つものです。美術館を核とする文化によるまちづくりの必要性はそこにあります。